

12/21
朝日

感染経路「家庭内」が増加

専門家「持ち込まないよう注意を」

新型コロナウイルスの感染拡大が続く都市部で、家庭内での感染が増えていく。市中感染の広がりでウイルスを家の中に持ち込む家族にうつしてしまうケースが多いとみられる。「換気、手洗い、消毒」といった基本的な対策の徹底が求められている。

30日に開かれた東京都のモニタリング会議では、直近1週間の家庭内感染が大幅に増え、感染経路が判明したケースの半数を占めたことが明らかになった。国立国際医療研究センターの大曲貴夫・国際感染症センターによると、感染者の6割ほどが感染したのか、

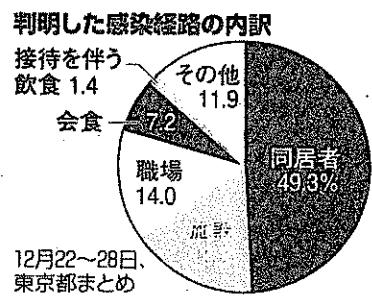
められている。

30日に開かれた東京都のモニタリング会議では、直

ターメンは「高齢者と同居する家族は、家庭に持ち込まれないように最大限の注意を払うことが必要」と指摘。小池百合子知事は「家庭内でマスクの着用をお願いします」と呼びかけた。都によると、感染者の6割ほどが感染したのか、

よいわからない。残り4割のうち、感染経路で最も多いのは同居者だ。23日から1週間では945人が家庭内感染し、過去最多となり。大阪府でも同様で、12月10日からの2週間で780人が家庭で感染した。大阪府でも同様で、12月10日からの2週間で780人が家庭で感染した。大阪府でも同様で、12月10日からの2週間で780人が家庭で感染した。

新たな感染者の18%を占めた。政府分科会は社会活動が活発な20~50代が会食の場などで感染し、家族につしているとみている。都内に住む30代の男性は陽性の判定を受け、同居の70代の母親も感染して入院。80代の父親は最初のP



C-R検査で陰性だったが、数日後の12月上旬、微熱があつて再検査をすると、陽性が判明した。保健所の関係者は「1人の感染が確認される前に、家族に広がっていることがほとんどだ」と話す。「新型コロナは発症直前ぐらに感染力が最も強くなる」と言っている。無症状の人も含めて大規模な調査をしていかない限り、広がりを防ぐのは難しい」

日本在宅ケアアライアンスによると、家庭内感染対策の基本は換気、手洗い、消毒だ。しかし、出勤する人などが自分が感染していると考えて、予防策を続けることは簡単ではない。第3波では、自宅療養の人が多く、23日時点で全国で9524人。宿泊療養者の2倍以上。新型コロナの検査に対応する北品川藤クリニック（東京都品川区）の石原藤樹院長は「保健所の業務が逼迫し、体調の変化や感染を広げる不安を相談できる体制は十分ではない。自宅療養を支援するスタッフが新たに必要ではないか」と話す。（阿部彰芳、編集委員・辻外記子）